

横須賀市中小企業景況レポート

第45号（令和6年1月号）

編集・発行：横須賀市経済部経済企画課
〒238-8550 横須賀市小川町11
電話 046-822-9523

市内中小企業の景況感を調査しました。

調査対象は、かながわ信用金庫と湘南信用金庫が従来から行っている景況調査先のうちの市内企業に加え、横須賀市及び横須賀市産業振興財団がさらに追加調査しました。

3か月に1回発行しています。

【市ホームページからもご覧いただけます。】

[横須賀市中小企業景況レポート | 横須賀市](#)

<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4402/keikyoreport/yokosukasikeikyuripoto.html>

- ① 調査対象：市内中小企業
- ② 調査企業数：157社（うち、かながわ信用金庫+湘南信用金庫 調査142社）
- ③ 調査期間：前期・・・令和5年7～9月の景況感（調査時点 令和5年9月1日）
今期・・・令和5年10～12月の景況感（調査時点 令和5年12月1日）
次期・・・令和6年1～3月の景況感（調査時点 〃 ）
- ④ 調査項目：景況、売上額、収益、雇用人員、資金繰り
- ⑤ 業種分類：製造業、建設業、卸・小売業、不動産業、サービス業
- ⑥ 集計方法：D I 値算出による（次ページにD I 値の説明あり）

景況及び4項目の調査結果（全業種）

* D I 値調査結果は裏面に記載

* 【 】は今期のD I 値を記載

全業種の景況感は、前期の7Pから変わらず、今期も【7P】となりました。

今期の景況感は、不動産業【0P】は9Pやや向上しましたが、サービス業【15P】は10Pやや低下しました。製造業【3P】、建設業【6P】、卸・小売業【6P】は、横這いの状況です。

項目別では、売上額【8P】、収益【0P】がそれぞれ6P、10Pやや向上しましたが、その他の項目は横這いの状況です。

昨年同期（令和4年10月～12月）との景況感比較は、今期構成比【2P】で、前期構成比【7P】と比べ、横這いの状況です。

コロナ禍の影響が緩和し景況感は横這いで推移していますが、原材料費や人件費の上昇による収益の影響、人手不足による受注機会の損失の声が聞かれます。

DI 値・・・良い（多い）、変わらない（普通）、悪い（少ない）の回答のそれぞれが全体に占める構成比を求めます。次に、良い（多い）等の構成比（%）－悪い（少ない）等の構成比（%）を計算した値がDI 値となります。プラス値が大きいほど景況感が良く（好況）、マイナス値が大きいほど景況感が悪い（不況）と言えます。

このレポートは次の基準で景況感を分類しました。（マイナスは△表示）

向上 (15P以上)	やや向上 (6P～14P)	変わらない (△5P～5P)	やや低下 (△6P～△14P)	低下 (△15P以下)
↑	↗	→	↘	↓

業種別 調査結果と事業者の声

*DI 値調査結果は裏面に記載

(1) 製造業 景況感 【 3P <変わらない> → 】 (前期比 0P)

前期と比べ、雇用人員【△35P】が7Pやや向上しましたが、資金繰り【△12P】は9Pやや低下しました。売上額【△11P】、収益【△12P】は、横這いの状況です。

次期は、資金繰りが、やや向上の見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・案件は増えているが、人が足りず断っている仕事もある。人を増やせば受注できるため、売上や収益も上がると感じる。
- ・現在も材料高騰の影響が続いており、円高にならない限り好転していかないのではないかと思われる。

(2) 建設業 景況感 【 6P <やや良い> ↗ 】 (前期比 3P)

前期と比べ、収益【△3P】は11Pやや向上しましたが、売上額【0P】、雇用人員【△61P】は、それぞれ9P、14Pやや低下しました。資金繰り【△6P】は横這いの状況です。

次期は、売上額がやや向上する見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・昨年の受注が少なかった反動もあり、受注増加傾向。材料費は高止まり、人件費の上昇も顕著であるが、適正な見積もりを出していることで利益率も変わっていない。
- ・今期は、予定していた工事が早まり、受注も途切れなく確保できているため増加となった。材料費は軒並み高止まりしており、コロナ禍前と比べ利幅は少なくなっている。
- ・日々材料費や仕入れ単価が上昇する中、適正価格での受注に向けて営業している。ガソリン代もかさむことから利益確保に向け、他の経費支出を抑えている。

(3) 卸・小売業 景況感 【 6P <やや良い>  】 (前期比 4P)

前期と比べ、売上額【23P】は27P大幅に向上し、収益【0P】、資金繰り【△6P】は、それぞれ13P、12Pやや向上しました。雇用人員【△35P】は横這いの状況です。次期は、収益がやや向上し、資金繰りがやや低下する見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・人流が戻り、売上も好調に推移している。しかし、材料費や人件費が上昇して、これ以上の原価の上昇は利益を圧迫する危険性がある。プレミアム付商品券は、買い物の喚起に役立っている。
- ・コロナ禍終息に伴い、年末年始は飲食の機会も増えていることから売上は上昇傾向にある。

(4) 不動産業 景況感 【 0P <変わらない>  】 (前期比 9P)

前期と比べ、売上額【20P】、収益【20P】は、それぞれ38P、29P大幅に向上し、雇用人員【△20P】、資金繰り【10P】は、それぞれ7P、10Pやや向上しました。次期は、資金繰りがやや向上する見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・賃貸市況は、比較的安定している。仕入れも順調で市況は悪くないが、全体的に仕入物件の競争が多い。
- ・在庫は順調に販売できているが、仕入価格が横這いで推移の中、販売価格はやや下降気味であり、慎重に取り組んでいる。

(5) サービス業 景況感 【 15P <良い>  】 (前期比 △10P)

前期と比べ、雇用人員【△14P】が17P向上しましたが、売上額【14P】、資金繰り【△11P】は、それぞれ11P、8Pやや低下しました。収益【7P】は、横這いの状況です。

次期は、資金繰りが向上し、雇用人員はやや低下する見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・コロナの分類が5類になったことで、各所でのイベント増加分が売上増加に繋がっている。
- ・売上は前年比10%減少。諸物価が高騰していく中ではあるが、常連客の継続的な来店や近隣の新規顧客の獲得などで売上は増加傾向。
- ・コロナ禍の影響は一段落したものの、一度離れた利用者の戻りが鈍い状況。人件費負担も多く、利益を確保するのが厳しい。

DI 値 調査結果

前・・・前期 令和5年7月～9月の景況感（調査時点 令和5年9月1日）
 今・・・今期 令和5年10月～12月の景況感（調査時点 令和5年12月1日）
 次・・・次期 令和6年1月～3月の景況感（調査時点 令和5年12月1日）



業種別調査企業数(回答数)

	全業種	製造業	建設業	卸・小売業	不動産業	サービス業
前期	152	31	34	44	11	32
今期	157	34	36	49	10	28
次期	157	34	36	49	10	28

(単位：社)

(単位：ポイント)

項目	業種			全業種			製造業			建設業			卸・小売業			不動産業			サービス業		
	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次
景況	景況全般について総合的な概況をお聞きしました。																				
良い(A)	33	25	20	35	24	15	32	28	25	32	24	20	9	10	10	41	29	21			
変わらず	41	57	65	33	55	67	39	50	53	38	58	70	73	80	80	43	57	65			
悪い(B)	26	18	15	32	21	18	29	22	22	30	18	10	18	10	10	16	14	14			
DI値(A)-(B)	7	7	5	3	3	△3	3	6	3	2	6	10	△9	0	0	25	15	7			
今-前 / 次-今	0		△2	0		△6	3		△3	4		4	9		0	△10		△8			
売上額	製造業については、生産品を出荷した額をお聞きしました。																				
好転(A)	32	28	24	32	18	12	35	28	31	30	35	29	9	20	20	41	32	21			
変わらず	38	52	62	26	53	67	39	44	50	36	53	61	64	80	80	43	50	68			
悪化(B)	30	20	14	42	29	21	26	28	19	34	12	10	27	0	0	16	18	11			
DI値(A)-(B)	2	8	10	△10	△11	△9	9	0	12	△4	23	19	△18	20	20	25	14	10			
今-前 / 次-今	6		2	△1		2	△9		12	27		△4	38		0	△11		△4			
収益	売上から経費を引いた収益状況をお聞きしました。																				
増加(A)	24	20	18	26	12	9	21	19	19	23	22	20	9	20	20	34	25	21			
変わらず	42	60	68	32	64	67	44	59	62	41	56	72	73	80	80	41	57	68			
減少(B)	34	20	14	42	24	24	35	22	19	36	22	8	18	0	0	25	18	11			
DI値(A)-(B)	△10	0	4	△16	△12	△15	△14	△3	0	△13	0	12	△9	20	20	9	7	10			
今-前 / 次-今	10		4	4		△3	11		3	13		12	29		0	△2		3			
雇用人員	需要に対応できる労働状況をお聞きしました。																				
多い(A)	2	4	3	3	6	3	6	3	3	0	2	2	0	0	0	0	7	4			
適正	58	56	56	52	53	56	41	33	36	64	61	59	73	80	80	69	72	71			
少ない(B)	40	40	41	45	41	41	53	64	61	36	37	39	27	20	20	31	21	25			
DI値(A)-(B)	△38	△36	△38	△42	△35	△38	△47	△61	△58	△36	△35	△37	△27	△20	△20	△31	△14	△21			
今-前 / 次-今	2		△2	7		△3	△14		3	1		△2	7		0	17		△7			
資金繰り	資金繰りが上手く行っているかを判断するためお聞きしました。																				
余裕がある(A)	13	11	12	13	12	18	12	11	8	16	12	10	9	10	20	13	7	11			
支障がない	67	71	73	71	64	64	73	72	78	50	70	68	82	90	80	71	75	82			
苦しい(B)	20	18	15	16	24	18	15	17	14	34	18	22	9	0	0	16	18	7			
DI値(A)-(B)	△7	△7	△3	△3	△12	0	△3	△6	△6	△18	△6	△12	0	10	20	△3	△11	4			
今-前 / 次-今	0		4	△9		12	△3		0	12		△6	10		10	△8		15			

<参考> 昨年同期と現在の景況感比較(回答152社)

	企業数	今期構成比	(参考) 前期構成比
昨年と比べ「景況感」は良い(A)	43社	28%	27%
昨年と比べ「景況感」は変わらない、横ばい	70社	46%	53%
昨年と比べ「景況感」は悪い(B)	39社	26%	20%
DI値(A)-(B)		2P	7P

